

clue to the future --第5回 Motor Control 研究会に参加して--

東北大学大学院 医学系研究科

山越聖子

本研究会は、私の研究テーマである運動機能と認知機能との関係について勉強させて頂く絶好の機会であり、参加させて頂くのを非常に楽しみにしておりました。研究会全体の印象としては、熱気あふれる討論が至る所で繰り広げられる盛大な会でした。本研究会の発表スタイルは演者が口頭発表をした後、更にポスターで参加者とディスカッションを行うスタイルとなっており、参加者は納得のいくまで演者と緊密にディスカッションが出来ます。ディスカッションの時間は十分に設けてあるので演者に対して研究についての質問だけでなく、演者のバックグラウンドやその研究に至った経緯、今後の展望まで演者の熱い思いを聞くことが出来、とても刺激を受けました。演者の方々は皆発表も然る事ながら、更にディスカッションに重きを置き、参加者からの意見を積極的に取り入れて自身の研究をより高めようとしていました。その先へ先へと進もうとする姿勢を拝見し、自分の研究活動に対する態度の至らなさを痛感したと同時に強く奮起させられました。発表内容は多岐に渡り、様々な領域の研究者が集っているので、他分野の方々の視点から意見を受け取れることも出来ます。故に異なる視点から新しいアイデアを生み出せる可能性があるのも本研究会の魅力の一つであると感じました。

特別講演では丹治順先生（東北大学）による「神経系の回路構造における運動系の基本的な設計」について講演が行われました。動作開始前の高次運動野領域のお話では、前補足運動野と補足運動野において、行うべき動作の順序情報処理を担う細胞が存在するというお話に感銘を受けました。また脳梗塞部位から機能局在を導き出すことについて先生は「患者さんに学べ」と提言して下さいました。その言葉は、臨床研究に携わらせて頂いている私にとっても響きました。患者さんの臨床的所見と画像所見とを照合し、徹底して吟味しつくすことの大切さを改めて教えて頂きました。

シンポジウムでは、運動想像中の脳活動のイメージング研究や随意運動制御障害の神経生理学的研究、四肢の筋肉骨格系の運動制御など、何れも第一線でご活躍されている多数の先生方の講義を聴講することが出来ました。特に運動想像中の脳活動のイメージング研究は、運動想像をリハビリテーションに併用出来る可能性を示唆している点が大変興味深く感じました。ヒト型ロボットを用いた工学分野への応用や咀嚼機能研究については私自身今まで触れたことがなく、大変勉強になりました。様々な領域のスペシャリストのお話

を聞いて最新の動向を知ることが出来、研究へのモチベーションを大いに高めることに繋がりました。

また本研究会の特徴として、参加者からボランティアを募り、研究会を運営している事が挙げられます。今回は私も運営ボランティアに参加させて頂きました。運営ボランティアに携わることで運営側の大変さを実感することが出来ましたし、何より参加者の方々と密にコミュニケーションを取れたことがとても嬉しかったです。初めてお会いしたにも関わらず、各自の研究室の様子や現在の悩み、将来の目標に至るまで楽しく語り合うことが出来ました。ボランティアを一緒に行う仲間としての一体感から議論を楽しむ雰囲気は自然と醸し出され、その雰囲気が研究会全体を盛り上げる原動力となっていたのではないのでしょうか。とても貴重な体験をさせて頂き、開催期間の3日間を非常に充実させることが出来ました。

本研究会を通して今後の研究活動を行っていく上での沢山のヒントを頂きました。研究内容はもちろん、聞き手により良く伝えるためのプレゼンテーションの技法、研究に対する自身の在り方など、現在の私に不足している部分を明確に認識することが出来ました。このヒントを基に自分の不足している部分を補い、来年の研究会には大きく成長した自分となって参加出来るよう、より一層努力していきたいと思えます。